

たちだより 第17号

訪問看護って？

訪問看護って何してくれるの？ってよく聞かれます。体を拭くと「お風呂に入ったようで気持ちがいい」「便秘が治った」「薬の飲み忘れがなくなった」「家で最期を看取れてよかった」「介護方法が分かった」など訪問看護を利用されている方の声が聞かれます。寝たきりで床ずれがあっても、医療処置があっても住み慣れた家で安心して生活・介護ができるよう支援します。かかりつけ医の指示により専門の看護師がご自宅に伺います。かかりつけ医がいるように、身近にかかりつけの看護師がいるって安心ですね。いつでもご相談・ご連絡下さい。



95歳まで自転車に乗り畑仕事に精を出していたTさん。Tさんに息子さんの事を誰？と尋ねると苗字の後に愛称で“こうちゃん”と答えてくれます。それを聞いている息子さんの表情は幸福感があふれて見えます。“私が定年になるまで親父が頑張ってくれた、これからの時間は親父の為に使おうと思っています。”と語った息子さん104歳万歳！

訪問日記

父が昨年1月に、左足大腿骨骨折で西大宮病院に1ヶ月入院しました。103歳という年齢からリハビリ後も歩行は難しく、血液検査からも余命は厳しいとの診断を受け退院しました。自宅での介護は初めての経験でしたが、ケアマネージャーさん、ヘルパーさん、訪問入浴の方々、タッチさんの訪問看護と西大宮病院の訪問診療を受け、適切なアドバイスと親身な対応をしていただき、104歳と7ヶ月の現在まで、命をつないで来られました。家族共々どうか宜しくお願い致します。(T様の息子様)



訪問看護を利用して



95歳の母の在宅介護になり、1ヶ月が過ぎました。母は24時間酸素の吸入が必要な為自宅に家族を残し、1人で介護する不安と心配の中始まった在宅介護。幸いにも、西大宮病院の担当医の先生始め、タッチの皆様方にお力添えを頂き、母も食が進み元気（ベッドの上ですが・・・）に過ごせる様になりました。タッチの皆様、担当の方々の専門的なプロフェッショナルな看護、明るく元気に母に接して下さる様子に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。何より「この仕事が好き」とおっしゃる言葉に感激しています。又、私にも何かと心使いを下さるのに頭が下がります。できるだけ長くお付き合い頂ける様私も頑張りますので、どうぞご指導宜しくお願い致します。（O様の娘様）

私の身体の自由を奪ったのは4月17日、78歳の春でした。あれから9年、今も生きていて86歳になりました。随分と色々な人のお世話になりながらです。タッチには当初から現在に至る迄ずっとですから、もう感謝です。これから何年生きるか見当もつきませんが宜しくお願い致します。それにしてもタッチという名称は良く出来ていて、私のように身体不自由の身にとっては優しい手で触って面倒を見るという事ですからこれ以上のぴったりした名前はないと思いました。現在の私は重度要介護者として沢山の人のお世話になりながら、この世に生きておりますが、毎日を結構楽しんでおります。（K様）



89歳になる母は7年前に腸閉塞で緊急手術を行い、45日間の入院生活を送り退院しました。私は、母を元気な体に戻す為、仕事を辞め、看病・介護に全力を注ぐ事にしました。退院後、私の介護への思いと現実の厳しさを思い知らされました。母の少しの体調の変化でも、悩み、焦り過ぎて冷静な対応ができませんでした。そんな中、週1回訪問看護で訪れる「タッチ」の看護師さんも私の歯がゆい対応を察したのか、介護の心構えを色々アドバイスして頂きました。体調管理・栄養指導・リハビリ指導、生きがいの発見、介護者の体調管理（心に余裕を持って）です。看護師さんは、「介護とは」を指導してくれていたのですが、それを理解したのは6年目を終える頃からでした。母には一日でも長く生きて私に親孝行をさせて欲しいと思っています。「タッチ」の皆さん、これからも私の親孝行に力をお貸し下さい。（H様の息子様）



TEL:048-646-4701

FAX:048-646-4700

HP :<http://www.nishiohmiya-hp.com/>

